

第3回SJAC会員企業部隊研修 (陸上自衛隊木更津駐屯地)

令和7年2月27日、SJAC会員企業による陸上自衛隊木更津駐屯地研修を実施したので、その概要を報告する。

1. 研修の背景

SJACは令和5年度より会員企業と一線部隊との意思疎通・相互理解を深める施策として部隊研修の取り組みを始めた。令和5年度には航空自衛隊百里基地にて2回の研修を実施し、56社89名の参加があった。

会員企業からの要望も多いことから引き続き部隊研修を継続することとし、今年度は陸上自衛隊最大の航空部隊を擁する木更津駐屯地・第1ヘリコプター団の研修を行った。

2. 研修概要

次に示すスケジュールで研修を実施した。

- ・12：30～13：00 JR木更津駅集合後、チャーターバスに乗車して出発
- ・13：00～13：20 駐屯地広報館にて部隊概要説明を受け展示品を見学
- ・13：30～14：10 CH-47JA実機見学
- ・14：15～14：50 V-22実機見学
- ・14：55～15：30 EC-225LP実機見学
- ・15：45 JR木更津駅にて解散

3. 参加企業（順不同）

- スカパーJSAT株式会社
- 株式会社寺内製作所
- 株式会社ミクニエアロスペース
- 日本無線株式会社
- ミネベアミツミ株式会社
- 株式会社ジーエスユアサテクノロジー
- メイラ株式会社
- 多摩川精機販売株式会社
- 住友商事株式会社
- 中部日本マルコ株式会社
- 丸文株式会社
- 株式会社ジャムコ
- 株式会社IHI
- 三菱重工航空エンジン株式会社
- 株式会社島津製作所
- 住商エアロシステム株式会社
- 兼松エアロスペース株式会社
- 沖電気工業株式会社
- 日本エアークラフトサプライ株式会社
- 相互発條株式会社
- 森村商事株式会社
- 株式会社吉光工業
- 株式会社マクシスエンジニアリング
- 株式会社湘南精機

4. 部隊見学

(1) 広報館での部隊概要説明および展示品見学

木更津駐屯地は、千葉県中西部の木更津市に位置し、敷地面積約210万平方メートル（東京ドーム約45個分）外周約5.7キロメートルあり、約1000名を超える隊員が駐屯各部隊に所在していると同時に、第1ヘリコプター団をはじめとした部隊の航空機約70機が所在している。

終戦後、日米地位協定によりアメリカ軍の管理下にあり、現在も陸上自衛隊とアメリカ軍が土地及び施設等を共同使用している。

また、木更津駐屯地は、約1800メートルの滑走路を有しており、駐屯地に所在する航空機のほか、航空自衛隊の所有するC-130大型輸送機等の離発着も可能であるとともに、首都圏へのアクセスが良好であることから、関東地区における航空防災拠点の基盤となっている。(以上、駐屯地ホームページより抜粋)

木更津駐屯地には、陸上総隊隷下の第1ヘリコプター団の他、第4対戦車ヘリコプター隊などの東部方面隊隷下部隊、防衛大臣直轄部隊などが所在しており、第1ヘリコプター団長が木更津駐屯地司令を兼務している。

見学者一同は、駐屯地広報館にて陸上自衛隊概要および駐屯地概要の説明を受けたのち、展示されているV-107(バトル)実機「VIP仕様」や史料などを見学した。V-107は昭和60年の日航ジャンボ機墜落事故や平成3年の雲仙普賢岳噴火の際の災害派遣で活躍した機

体で、現在は全機が退役している。

(2) CH-47JA (チヌーク) : 第1ヘリコプター団 第1輸送ヘリコプター群所属

2月26日に発生した岩手県大船渡市の大規模山林火災に対する災害派遣で、空中消火活動のためにCH-47JAが出動中であつた。ニュース映像でも目にする空中消火用の大型バケツは「野火消火器材Ⅰ型」と称し、容量が約7.5トン(通常は5トン程度で運用)あるとのこと。

(3) V-22 (オスプレイ) : 第1ヘリコプター団 輸送航空隊所属

V-22の写真撮影は全面的に禁止であつたが、見学は操縦席を含め細部まで見せて頂くことができた。格納庫内ではプロップ・ロータ(プロペラ)が折り畳まれ、主翼が時計回りに90°回転した非常にコンパクトな状態で複数のV-22が整備中であつた。これは米海兵隊の要求に基づき空母などの艦船での運用が前提となっている航空機であるため、との説明があつた。



CH-47JA実機見学



CH-47JA実機見学



EC-225LP機体見学



EC-225LP操縦席見学



EC-225LP要人席見学

貨物室内中央部の天井部分には主翼回転の中心点があり、各種配管類が90°回転に対応できるような配置となっていることが分かった。

なお、陸上自衛隊では「オスプレイ」とは呼称せず、「V-22」と呼んでいるとのことであった。

(4) EC-225LP (スーパーピューマⅡ)：第1ヘリコプター団 特別輸送ヘリコプター隊所属

EC-225LPは、皇室、内閣総理大臣、海外要人等の移動に使用される要人輸送ヘリコプターで、木更津駐屯地でしか運用していない機体である。

2グループに分かれ操縦席と要人席の見学を行った。要人席は汚れが付かないようカバーが掛けられていたが、見学者も着席することができ、VIPの気分を味わうことができたようであった。

5. 参加者アンケート

会員企業からの参加者27名に対し、研修に

参加した感想、要改善点や要望事項、今回参加できなかった会社および今後SJACへの入会を考えている会社へひとこと、というテーマでアンケートを実施した。

頂いたコメントのうち要改善点については次回以降の研修に確実に反映していきたい。(アンケート結果については代表的なものを末尾に紹介する)

6. 所感

今回は年度末が近いということで参加人数が前回と比べて若干少なかったが、逆に隊員の方々からじっくり説明を受けることができた。

来年度は航空自衛隊および陸上自衛隊に続き、海上自衛隊部隊研修も実施できるよう防衛省側と調整を進めたい。

最後に、会員企業研修を快く受け入れて頂いた木更津駐屯地司令以下広報班の皆様、任務・訓練でご多忙の中、各機体の展示およびご説明をして頂いた隊員の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



V-22前での集合写真（駐屯地広報班撮影）

【研修参加者アンケート結果】

①研修に参加した感想
見学している機体の隣で修理している機体の整備に女性を何名か見かけ、女性隊員の活躍を心強く感じた次第です。女性陸上自衛官の活躍の場が更に増えることを願っております。
写真で見るのとは全く異なり機体の大きさに圧倒されました。又、実際の自衛官からの話を聞け、大変勉強になり理解が深まりました。今後も機会があれば積極的に参加していきたいと思えます。実務に役立てられる様、引き続き知識習得に努めていきたいと考えます。
実際の機体(CH-47、V-22、EC-225)を間近でみることができ、大変貴重な体験だった。また、隣に隊員の方々がおり、機体をみて疑問に思ったことや聞いてみたいことなどがあればすぐに聞くことができたのが非常に良かった。
現在の業務が海自中心のため、陸自の部隊に接する機会が少なく、貴重な研修となりました。木更津駐屯地の方々、お忙しいところご対応ありがとうございました。特別輸送ヘリコプターの見学も大変貴重な体験となりました。機内の様子も見せていただけたとは思ってもみなかったです。また、このような企画がございましたら、ご案内お願いいたします。上司、部下にも参加を呼び掛けたいと思います。
民間機／軍用機問わず実機に触れることは、製品や事業への興味関心だけでなく責任感や仕事の意義を高める絶好の手段のひとつであると改めて理解した。機種の説明を担当した隊員さんたちも丁寧かつ熱のこもった説明をしてくださり、プロ意識を感じずにはいられなかった。弊職はコーポレート業務(人事)を担当しており、エンジンや部品の営業／エンジニア業務ではない。このような間接業務の従業員にも本研修の機会を幅広く提供いただけると、各種人事施策の企画立案の際に役立つと思料する。
自衛隊航空機の実機に実際に触れるのは初めてのことでしたので感動いたしました。あくまで可能であればという要望ですが整備の様子を間近で見たいです。今回担当していただいた自衛隊員の皆さまの説明と質疑は、真摯かつ親身なご対応で大変感謝しております。改めて製品をとおして自衛隊員の皆さまの航空安全を支えていきたいと強く思いました。自衛隊の方と直接コミュニケーションが取れる場は貴重なので、とても勉強になりました。
自社のサービスが実際の場面でどのような使われ方をしているのか、理解できるよききっかけになった。自衛隊員と交流する中で、これまで遠い存在であると感じていた皆様の人柄に触れ、親近感を持つことができた。
南西方面の安全保障環境が昨今、大きく変化していることは既知の通りであるが、実際の運用環境を運用されている方々から直接ヒアリングをすることができ、時間が足りないくらいでした。人材不足、部品枯渇、市民から理解、変化への対応に様々な障壁があることを感じた。運用における根本的な考え方を官民、二人三脚で見直していく必要を感じた。我々商社としてできることとすれば、世界メーカー製品の“運用方法”を細かく把握し、その上で官側の課題とぶつけることで迅速に変化への対応ができると考える。
日頃見ることができないエリアに入り、説明を受け、機体に乗り込むことができ、貴重な経験ができありがとうございました。自社が扱っている部品が使われている機体がある基地見学には今後も参加していきたいです。機体の整備を横でされていたので、そちらも拝見したかったです。弊社は部品製造メーカーでしたので部品の使用状況も拝見したかったです。

弊社が取り扱っているコネクタやハーネスは航空機の中でもごく一部の部品にはなりますが、取り扱い製品が機体に配線されているところを実際に見ることができ、機体の詳細説明をいただけたことは貴重な経験となりました。今回実際に現場を見学させていただいたことにより、弊社が取り扱う製品の先にご使用される自衛隊の方々がいらっしゃるということを念頭に置きながら今後の仕事に向き合っていきたいと感じました。
部隊の皆さんが各自の任務に誇りを持って取り組まれていると強く感じた。一部とはいえ機体の整備に携わっていることの責任感を改めて認識した。
普段見ることのない実物の機体や、機体スペック、操縦に関する話など非常に興味深い話ばかりで勉強になりました。部隊は違えど、自分が設計に関わっている航空機装備品がどのような使われ方をしているのかを実際に目で見て感じることができました。
現役の最新鋭装備品や現場の臨場感を生で感じられる絶好の機会でした。日々お忙しいところ、現場ご担当から大変丁寧にご案内ご説明をいただき、感謝を申し上げます。個人的にはV-22の内部まで詳しくご案内いただけたのは最高でした。
普段中々見る事の出来ない機体を間近で見る事が出来て貴重な体験だった。部隊の方達からも説明や疑問点の解説を頂けて非常にありがたかった。
日々業務で携わりつつも、現物を見たことのない機体を実際に細部まで見学できる貴重な機会でした。部隊の方は機体に関することから些細な質問まで気さくに回答くださり、理解がより一層深まったと感じます。また機会があればぜひ参加させていただきたいです。
研修に参加して、自衛隊の任務や特色について深く理解することができました。特に航空機の機体見学では、普段見ることのできない貴重な体験ができ、大変有意義でした。隊員の方々も非常に知識・経験が豊富で、質問にも丁寧に答えていただきました。

②今回参加できなかった会社および今後SJACへの入会を考えている会社へひとこと
実際に実機を見ながら、自衛官より詳細説明頂けることはこのような機会しかないと思います。業種問わず大変有意義な時間になるかと思います。
自社で取り扱っている部品が実際に付いている、使われている、そのような機体や現場を見ることができるのは非常に貴重だと思います。また、そうでなくても、見ることで新たな発見があると思いますのでぜひ参加することをおすすめします。
通常では経験できない部隊研修が企画されているので、ぜひ参加をお勧めします。また、年末懇親会、総会後の懇親会が開催されており、関係の官庁、関連企業の方との交流ができますので、ぜひ参加して人脈をひろげていただければと存じます。
航空・宇宙業界はアライアンスを結んで強みを発揮し合うことが重要だと考えます。本研修のような場から関係性を醸成できればと思っています。
自衛隊の概要から説明があり、初めて自衛隊と関わる方々も、これまでの知見がある方も、全員が何かしらの学びがある機会であると思います。
運用を確認することができ、根本的なニーズを把握することができるため非常に有益な機会になりますので、ぜひ参加ご検討ください。

SJAC会員ですと、部品の使用状況を見たり、隊員の方へ直接話を伺ったり、基地見学などの貴重な体験ができます。
木更津駐屯地研修へ参加させていただいたことにより、自社が関わる業界の知識を深めることができました。
このような貴重な機会に参加できること自体が会員企業のメリットの1つ。また、航空・宇宙分野に関わっているという一体感がある。
今回のような部隊の方々と意見交換ができる研修は、我々が仕事をしていく上で非常に大切だと思うので、ぜひ参加して頂きたいです。
普段立ち入ることのできない自衛隊基地内で、最新鋭の装備品をその内部まで間近で見学させていただきます。また、防衛の臨場感を生で感じられる絶好の機会でもありますので、是非ご参加ください。
一般で公開されている見学会であると土日で行われている為、中々業務として出席する事は難しいと思うので、このような機会を有効活用し自社製品の活用されている部分を見る等して社員の意欲向上に活用しては如何だろうか。
実際お互いに顔を合わせることで現場の困りごとや要望を伺えるのはとても有意義だと感じました。普段お客様とお会いする機会が少ない業務に携わられている方には、特に良い機会かと思います。
本研修は自衛隊全般・ヘリ団・各部隊の任務の概要の教育や機体研修等、防衛関係のお仕事を始められたばかりの方がこの業界に興味を持つには最適な内容でした。そういった方には、こうした研修は大変貴重な学びの場となるため、次回の機会があればぜひ参加していただきたいと思います。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 業務部部长 原野 清隆〕